

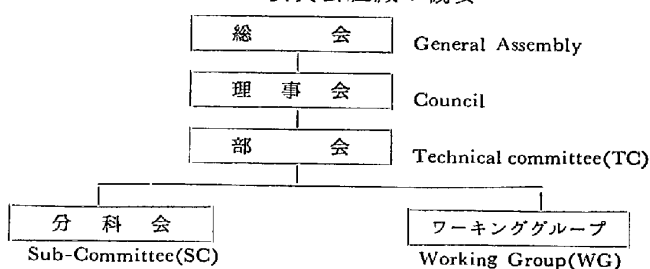
国際会議報告

ISO/TC17SC9 ぶりき会議報告

有賀 慶司\*

ISO(The International Organization for Standardization) は、1947 年に工業規格の国際的統一と調整を促進することを目的として発足したもので、現在 72 ケ国が加入 (1981 年 1 月現在) している。ISO 委員会組織の概要は下記のようになっており、表題 TC 17 は鉄鋼部会、SC 9 はぶりき・TFS(Tin Free Steel) の製缶用鋼板の分科会を意味する。

表 1. ISO 委員会組織の概要



SC 9 ぶりき分科会国際会議は、1963 年 3 月のロンドンでの第 1 回会議以来、1980 年の第 15 回会議まですべて欧州・北米で開催されて来たが、今回初めて日本での開催となった。表 2 に前回第 15 回会議までの開催地、開催時期及び主な議題を示した。

今回の第 16 回会議は、1981 年 10 月 6 日～8 日東京・経団連会館において開催され、参加人数は 19 名、参加国数 8 ケ国であった。

SC 9 分科会に先だち前日の 10 月 5 日(月)の午前中 WG 3 会議、午後 WG 2 会議が開催された。WG 3 (Working group 3) は、今回の SC 9 の主テーマであ

る TFS 規格に関連して、金属 Cr・Cr 水和酸化物の付着量及びその測定方法について事前審議をするための専門者会議である。日本は世界に先がけて TFS を開発製品化し、その製造技術及び製品を、各国に輸出している。また製缶業界においては、従来の接合法とは全く異なつた新接合技術が開発・実用化され、飲料缶用への利用拡大がなされた。以上の様に TFS の製造及び製缶材としての使用実績ともに日本が世界をリードしている状況にあるため、WG 3 会議では、Cr・Cr 水酸化物中の Cr 分析法に関して、日本案が全面的に規格案に追加される事になつた。また Cr 付着量については、日本案も含め、各国の実績を SC 9 会議に提出し、SC 9 で審議するという事になつた。午後の WG 2 は、フランスより提案されたぶりきの新めつき量体系について討議する専門者会議である。フランスの提案理由は、(1)錫の節減のためとしており、その内容は下記のとおり、

	単位 g/m <sup>2</sup>				
フランス案	2.8	4.0	5.0	7.5	10.0
JIS・ISO	2.8	—	5.6	8.4	11.2

ぶりきの錫付着量は、ぶりきの各種特性の内、缶の耐内容物あるいは外面の耐食性と関係しており、この付着量の変更のためには、慎重で長期的な実缶バックテストが必要である。またフランス案での錫節減には疑問が残るとして、日本としては一応支持しない方針で臨み、結果的には、各国のぶりき製品の付着量の実績を調査する事になつた。いずれにしても今後ぶりきについては、2.8 g/m<sup>2</sup> 以下の低付着量のぶりきの規格化及び付着量保証下限値がテーマになる事が予想される。

SC 9 分科会は上述のごとく、6 日(火)～8 日(木)の 3 日間でその主議題は TFS 第一次草案 (First Draft Proposal ISO for Single Cold Reduced Electrolytic Chromium/Chromium Oxide Coated Steel in Sheet

表 2. SC9 国際会議開催状況及び主な議題

開催地	参加状況		主 な 議 題
	国数	人数	
第 1 回 ロンドン	11	—	Tin Plate・Black Plate 原案審議
第 2 回 デュセルドルフ	13	—	同 上
第 3 回 パリ	13	—	同 上
第 4 回 フィラデルフィア	11	34	同 上
第 5 回 ロンドン	10	25	Tin Plate and Black Plate in Sheet Form 審議完了
第 6 回 ブラッセル	13	39	Tin Plate and Black Plate in Coil Form 審議開始
			Packing, Colour Code 審議開始
第 7 回 ミラノ	11	41	同 上
第 8 回 パリ	11	40	同 上
第 9 回 西ベルリン	12	40	同 上, Sn 分析法審議
第 10 回 ロンドン	13	33	Tin Plate and Black Plate in Coil Form 審議完了
第 11 回 ロンドン	11	35	二回圧延電気めつきぶりき規格審議
第 12 回 パリ	13	38	同 上
第 13 回 デュセルドルフ	11	37	同 上
第 14 回 フィラデルフィア	13	38	同 上
第 15 回 ハーグ	13	35	TFS 規格審議

\* 東洋鋼板(株)技術部

Form) の本格的審議がなされた。本規格案では、その範囲に TFS 鋼板及びその鋼板にラッカー塗装、あるいは印刷したものまで含んでいたが、日本案が採用され、規格の範囲は TFS 鋼板のみと限定された。また、最も重要な金属 Cr 及び Cr 水酸化物の付着量についても日本案が採択された。

表 3. TFS の Cr 及び Cr 水酸化物中の Cr 量  
単位 mg/m 片面

金属 Cr 量	最小 30
Cr 水酸化物中の Cr 量	最小 5

統 計

世界の鉄鉱石生産高

(単位: 1000M.T)

国 別	Fe%	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980	
世 界 計		889 100	888 800	873 700	836 300	840 900	901 200	881 600	
ヨ	西ドイツ(注1粗鉱) (注2精鉱)	28 32/34	5 671 4 439	4 273 3 288	3 034 2 256	2 869 2 470	1 608 1 597	1 659 1 649	1 945 1 948
	ベルギー	34	123	93	63	47	43	—	—
	ルクセンブルグ	25	2 686	2 315	2 079	1 537	835	630	560
	フランス	31	54 730	50 142	45 543	37 011	33 776	31 966	29 199
	イタリア	32	795	739	647	576	427	250	216
	E C 9	28	3 602	4 490	4 583	3 745	4 240	4 269	916
			67 612	62 065	55 957	45 790	40 929	38 774	32 836
ロ	ノールウェー	59	3 904	4 109	3 972	3 724	3 720	4 250	3 807
	オーストリア	32	4 246	3 833	3 785	3 450	2 788	3 200	3 270
	スウェーデン	50	8 613	8 617	7 908	7 899	8 220	8 479	8 800
		62	36 153	30 867	29 862	25 416	21 487	26 620	27 184
パ	東ドイツ	24	25	59	59	63	70	84	60
	ユーゴスラヴィア	40	5 034	5 238	4 260	4 451	4 564	4 680	4 539
	ポーランド	27	1 296	1 192	716	659	529	500	500
	チェコスロバキア	28	1 688	1 773	1 904	1 994	2 023	2 015	1 928
	ソ連	54	224 883	232 803	239 109	239 716	244 231	246 000	243 370
ア	中国	50	51 000	51 000	48 000	55 000	65 000	70 000	75 000
シ	インド	61	35 544	41 796	43 740	42 600	38 450	39 035	41 500
	日本(注3)	57	780	902	766	664	606	460	478
ア	マレーシア	56	468	349	309	326	315	350	300
	フィリピン	63	1 616	1 352	577	—	2	2	—
北ア	カナダ	62	47 271	44 745	56 013	54 431	42 492	59 709	50 172
リカ		59	85 708	80 132	80 536	55 824	82 080	86 520	70 400
南ア	ブラジル	68	79 973	88 493	82 437	76 522	79 475	87 800	97 000
リカ	チレ	64	10 297	11 004	9 973	7 778	6 965	11 048	8 700
	ペルー	63	9 563	7 753	4 764	6 190	4 934	5 444	5 700
	ヴェネズエラ	64	16 408	24 104	18 685	13 683	13 635	16 340	16 000
アフリ	アルジェリア	52	3 792	3 204	2 760	3 180	3 036	3 120	3 000
カ	アンゴラ	62	5 496	2 556	—	—	—	—	—
	シエラレオネ	60	2 508	1 452	—	—	—	—	—
	リベリア	68	25 800	22 200	20 532	17 664	20 808	19 872	17 000
	モーリタニア	65	11 860	8 688	9 420	7 350	7 080	8 910	9 800
	南アフリカ(共)	63	11 553	12 298	15 663	26 232	24 201	31 560	26 100
オース	トラリア	66	96 688	97 365	93 120	97 465	83 226	91 686	97 000

出所: 西ドイツ連邦統計局「Eisen und Stahl」1981年第1-四半期号, 「MINING」1981年 annual review

注: 1. ドイツの( )は粗鉱の鉄分品位 2. 精鉱とは、出荷用の鉱石で、山元で焙焼および焼結したものを含む。

3. 砂鉄を含む 4. 1980年は推定を含む。